

環境・農水常任委員会 資料4-②
平成30年(2018年)3月12日
農政水産部食のブランド推進課
農業経営課

(仮称)

近江米生産・流通ビジョン

～「マーケットイン」を強く意識した米づくりへの転換～

(案)



平成30年3月
近江米振興協会

目次

1	ビジョン策定の目的	1
2	計画期間	1
3	近江米の現状	2
	(1)近江米の流通状況	
	(2)主要品種の生産動向と流通の現状	
	(3)環境こだわり米の生産動向	
4	近江米の特徴(強みと弱み)	12
5	目標	13
6	今後の近江米生産・流通の方向性	14
	(1)マーケットインの取組	
	(2)品種別・用途別の販売ターゲットと作付の方向	
	①「コシヒカリ」	
	②「みずかがみ」	
	③「キヌヒカリ」	
	④「秋の詩」	
	⑤「日本晴」	
	⑥滋賀羽二重糯	
	⑦その他品種、酒造好適米	
	(3)環境こだわり米の生産	
	(4)近江米のPR戦略	
	(5)新品種の育成方向	
7	その他	25
	近江米に関する参考データ	

1 ビジョン策定の目的

平成30年産米から、国の「新たな米政策」がスタートします。

今後は、行政による生産数量目標の配分がなくなり、農業者や産地は主体的に米づくりを行う必要があります。

また、主食用米の消費量が年々減少しているなかで、この米政策の見直しにより、産地間競争が一層激しくなるものと考えられます。

こうしたなかで、今後とも「近江米」に対する消費者や販売店などの高い評価を維持するとともに、本県農業の大宗を占める水田農業を守り、農家所得を確保するためには、近江米の流通実態や県内外の卸売業者等の意向・評価等を踏まえた「マーケットイン」を強く意識した生産を行う必要があります。

このため、今後の近江米の生産・流通について、関係者一同が心をひとつにして取り組む指針として本ビジョンを策定しました。

このビジョンをもとに、関係機関や団体が需要に即した生産を積極的に啓発・推進するとともに、集荷業者が行う生産者への「作付提案」などにつなげていきたいと考えています。

2 計画期間

平成30年産からの概ね3年を目途とし、需要動向に応じて見直しを行います。



3 近江米の現状

(1) 近江米の流通状況

平成28年度に県が実施した、平成27年産の近江米流通状況調査の結果(推計値)は以下のとおりです。

平成27年産米生産量 154,200t(主食用米)
農林水産省「作物統計」から算定

※米収穫量(主食用)から、種子用、酒造用等を除いています

ア 農家による直接販売等の量と集荷業者への出荷量(推計)

農家直接販売・自家消費等 62,600t (40.6%)	集荷業者へ出荷 91,600t (59.4%)
------------------------------------	-------------------------------

○農家による直接販売等(自家消費・縁故米等を含む)は約4割、JA等集荷業者を通じた販売は約6割となっています。

イ 流通先別の量(推計)

県内 76,100t (49.4%)	県外 78,100t (50.6%) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td rowspan="4" style="font-size: 2em;">}</td> <td>内訳</td> <td>近畿 95%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>関東 2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中京 2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他 1%</td> </tr> </table>	}	内訳	近畿 95%		関東 2%		中京 2%		その他 1%
}	内訳		近畿 95%							
			関東 2%							
			中京 2%							
		その他 1%								

○県内・県外別はほぼ5割ずつで、県外流通の大部分が近畿地域へ流通しています。

○県内向けの流通量は、県民の米総消費量(約89,500トン:人口×1人当たり消費量)の85%に相当します。

ウ 用途別の流通量(推計)

家庭用 83,000t (53.8%)	業務用 46,700t (30.3%)	その他(自家消費等) 24,500t (15.9%)
---------------------------	---------------------------	----------------------------------

○業務用としての流通量は約3割、家庭用としての流通量は5割強を占めます。

エ 集荷業者への出荷量(91,600トン)の内訳

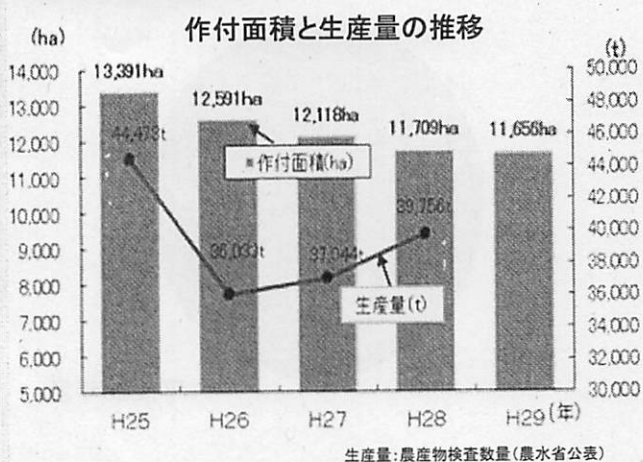
○流通先別 県内向け 25,300トン(27.6%)、県外向け 66,300トン(72.4%)
○用途別 家庭用 69,900トン(76.3%)、業務用 21,700トン(23.7%)

(2)主要品種の生産動向と流通の現状

「コシヒカリ」

- 作付面積は漸減傾向であるが、最も多い(H29:作付比率37.0%)
- 環境こだわり米の面積比率は44%
- 県外流通が70%
- 家庭用が94%

生産



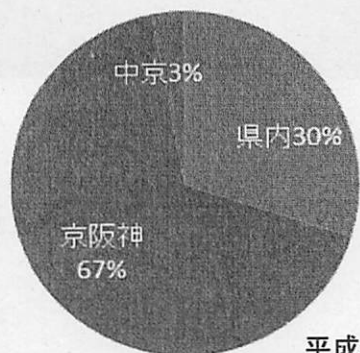
環境こだわり栽培面積の比率



平成28年産

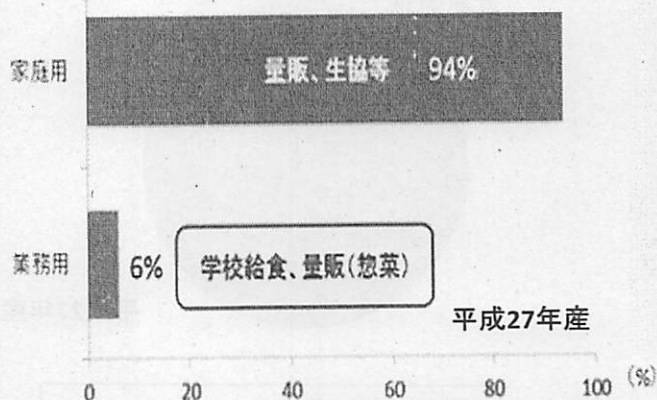
流通(全農しが取扱分)

供給エリア別比率



平成27年産

用途別比率と主な実需先



平成27年産

【優れたところ】

- ・食味と価格のバランスがよい!
- ・近江米「コシヒカリ」として関西での知名度が高い!

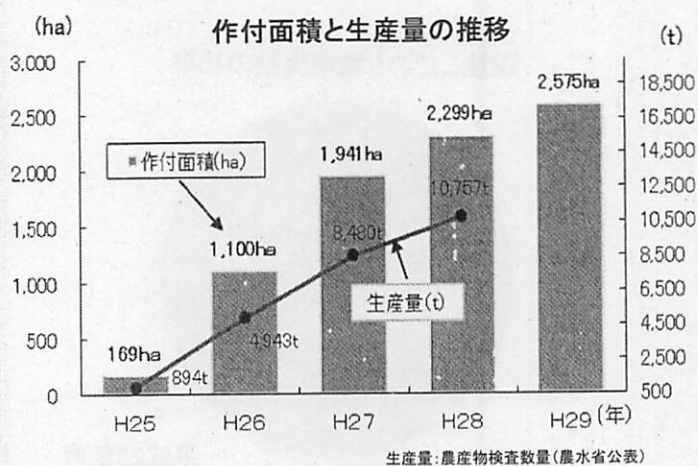
【弱いところ】

- ・夏の高温により白未熟粒が増加する
- ・食味ランキングは「A」に留まっている

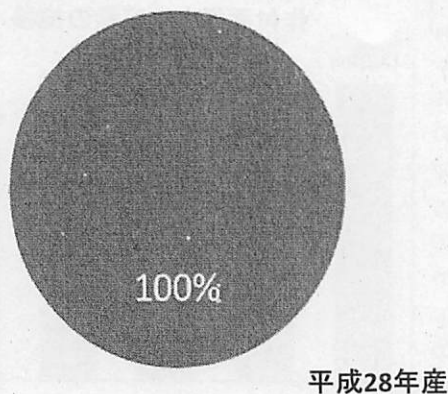
「みずかがみ」

- 作付面積は増加傾向(H29:作付比率8.2%)であるが、需要に生産が追いついていない
- すべてが環境こだわり米
- 県外流通が54%(一部には首都圏、中京圏)
- ほぼ全てが家庭用

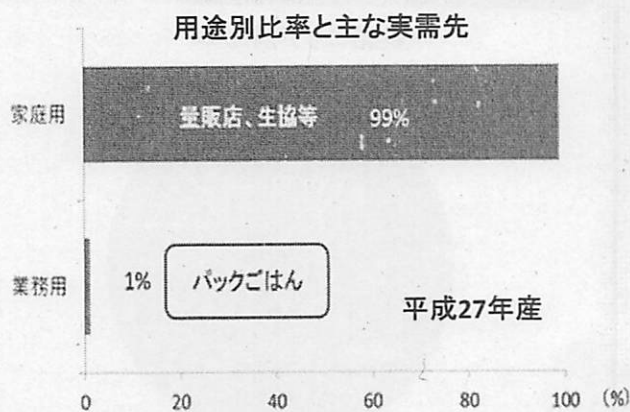
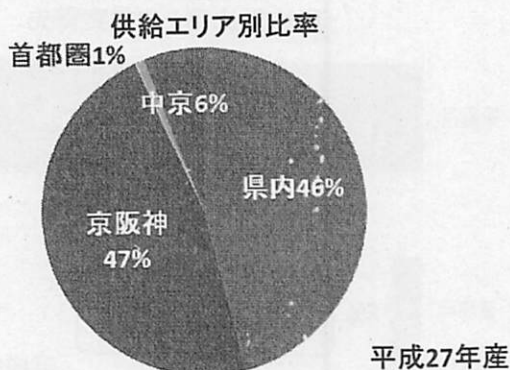
生産



環境こだわり栽培面積の比率



流通(全農しが取扱分)



〔優れたところ〕

- ・栽培要件が統一されている!
- ・冷めても美味しい!
- ・関係機関が一体となったPRの効果により知名度が高まっている!
- ・ネーミング、米袋デザインが良い!

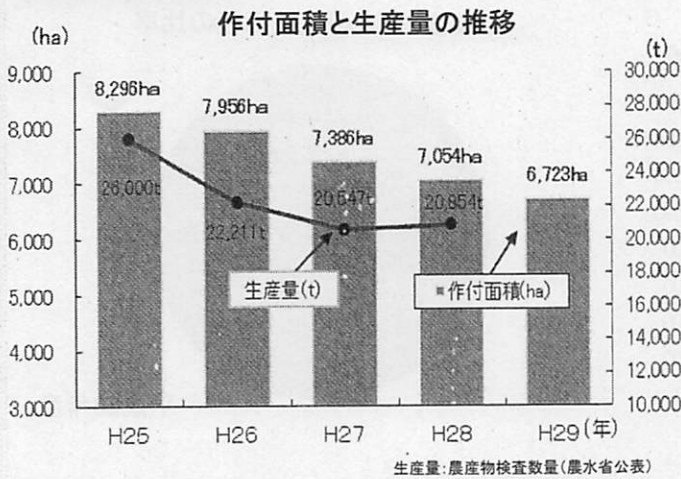
〔弱いところ〕

- ・生産量が少ない!
- ・年間を通した販売ができていない!
- ・収穫が8月中下旬の暑い時期になるため生産者が敬遠
- ・収量や価格面で生産者の評価が低い

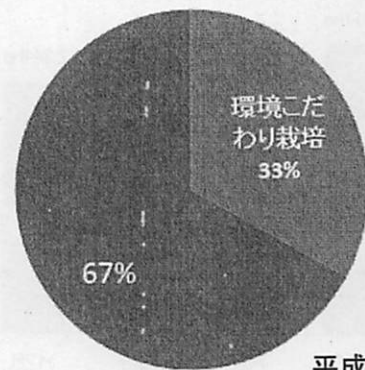
「キノヒカリ」

- 作付面積は減少傾向(H29:作付比率21.3%)
- 環境こだわり米の面積比率は33%
- 県外流通が73%
- 業務用が66%

生産



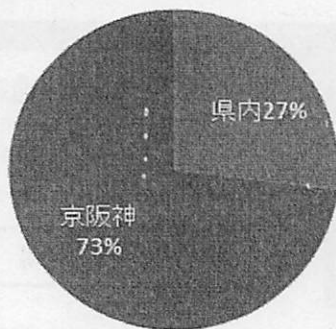
環境こだわり栽培面積の比率



平成28年産

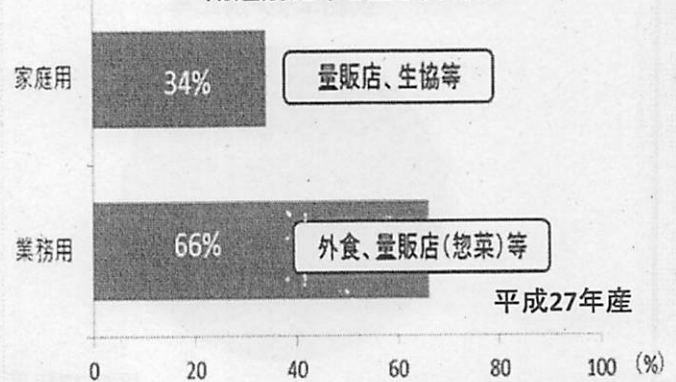
流通(全農しが取扱分)

供給エリア別比率



平成27年産

用途別比率と主な実需先



〔優れたところ〕

- ・一定のロットを確保できる!
- ・値頃感がある!
- ・炊飯適性が良い!
- ・実需者から一定の引合いがある

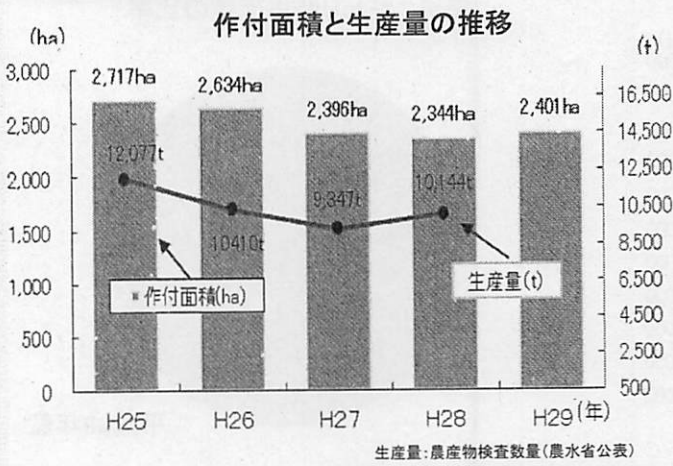
〔弱いところ〕

- ・夏の高温に弱く、1等米比率が低い(白未熟粒など)

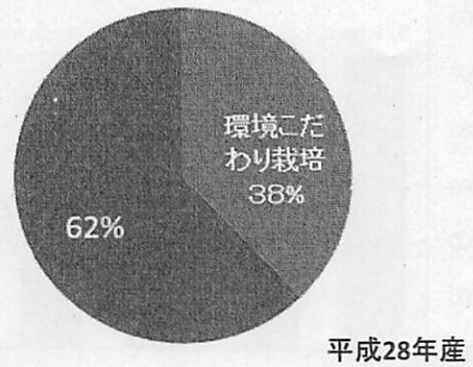
「秋の詩」

- 作付面積は横ばい(H29:作付比率7.6%)
- 環境こだわり米の面積比率は38%
- 県外流通が74%
- 家庭用が91%(量販店から外食業者が購入、実態として業務用が多い)

生産

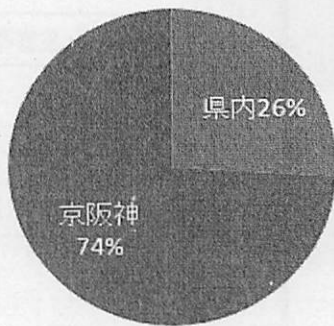


環境こだわり栽培面積の比率

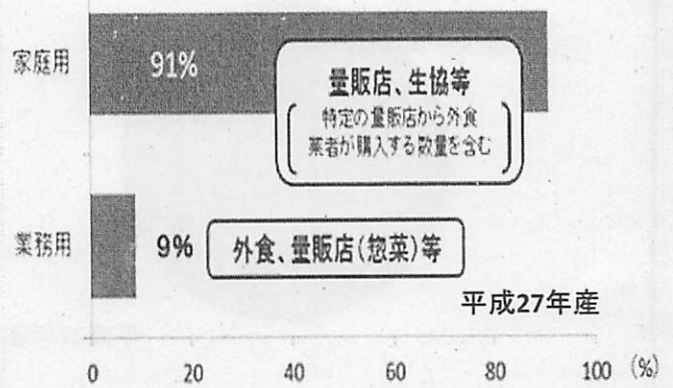


流通(全農しが取扱分)

供給エリア別比率



用途別比率と主な実需先



【優れたところ】

- ・価格と食味のバランスがよい!
- ・粒が大きく食感がよい!
- ・値頃感がある!

【弱いところ】

- ・生産量が少なく、ロットが小さい!

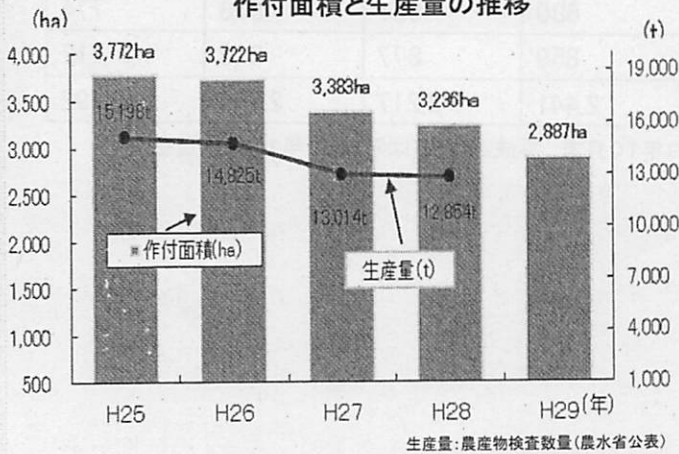


「日本晴」

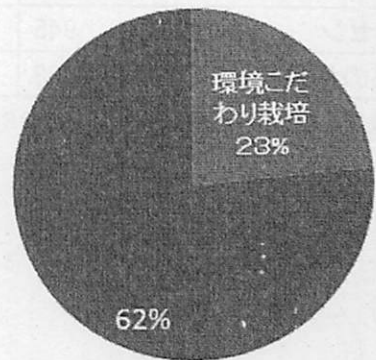
- 作付面積は減少傾向(H29:作付比率9.2%)
- 環境こだわり米の面積比率は23%
- 県外流通が73%
- 業務用が83%

生産

作付面積と生産量の推移



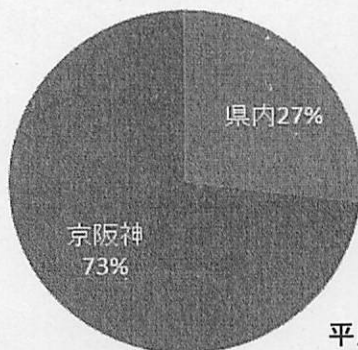
環境こだわり栽培面積の比率



平成28年産

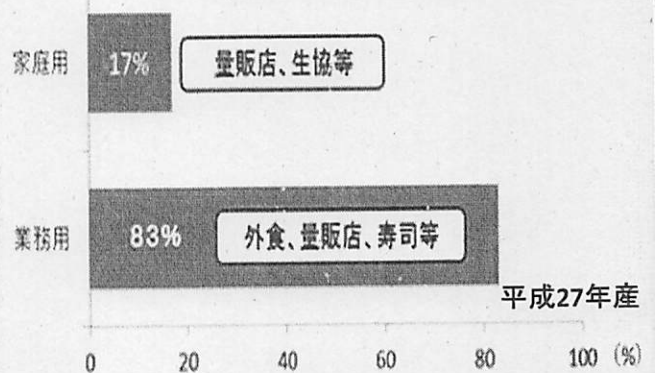
流通(全農しが取扱分)

供給エリア別比率



平成27年産

用途別比率と主な実需先



平成27年産

【優れたところ】

- ・業務用として炊飯ロスが少なく、加工作業性に優れる！
- ・寿司用としての適性に優れる！

【弱いところ】

- ・家庭用では食感が悪く、嗜好性が低い！



「その他品種」

その他品種の生産動向(農産物検査数量:トン)

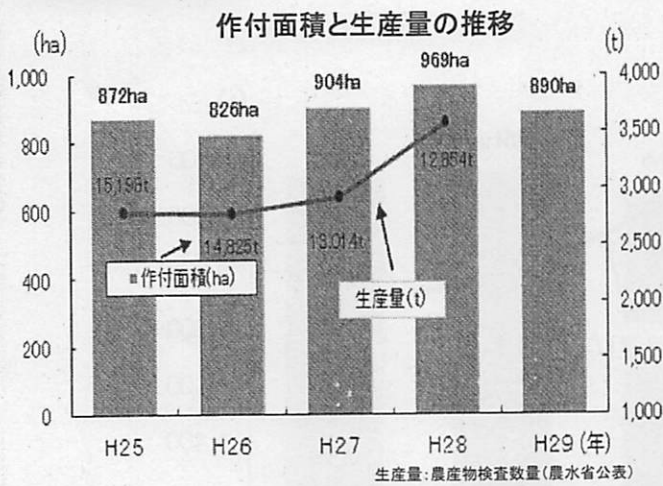
品種/年産	H24	H25	H26	H27	H28	H29
あきたこまち	2,271	2,824	2,534	2,252	2,109	1,983
ミルキークイーン	1,366	1,264	1,132	1,495	1,984	1,776
きぬむすめ	221	496	590	683	1,307	1,651
レーク65	1,696	1,727	1,490	875	914	808
ゆめおうみ	1,458	1,408	1,133	944	775	794
ヒノヒカリ	1,193	1,057	880	831	938	774
ハナエチゼン	945	1,088	859	877	848	712
上記以外の品種	2,483	2,798	2,441	2,217	2,561	2,792

※近畿農政局公表の銘柄別検査数量、平成28年産は平成29年10月末、平成29年産は平成29年12月末現在

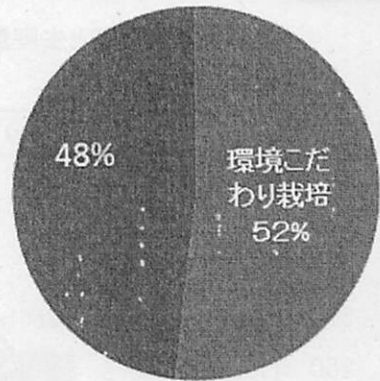
「滋賀羽二重糯」

- 作付面積は横ばい傾向(H29:作付比率2.8%)
- 環境こだわり米の面積比率は52%
- 県外流通が73%(京阪神の他、首都圏等)
- 業務用は49%、家庭用が51%

生産



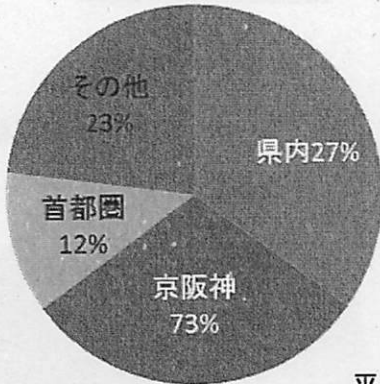
環境こだわり栽培面積の比率



平成28年産

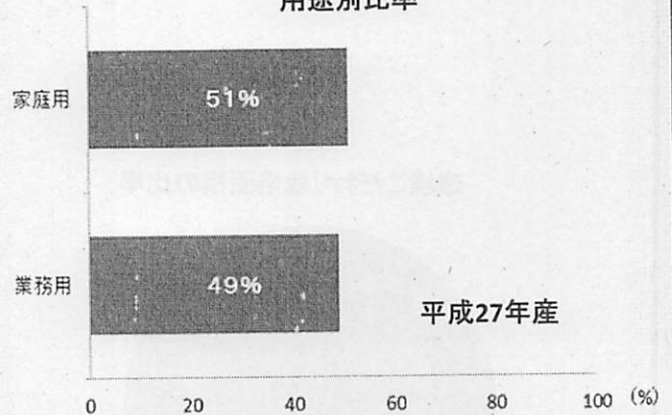
流通 (全農しが取扱分)

供給エリア別比率



平成27年産

用途別比率



平成27年産

【優れたところ】

- ・最高級もち米として評価が高く、ブランド力がある！



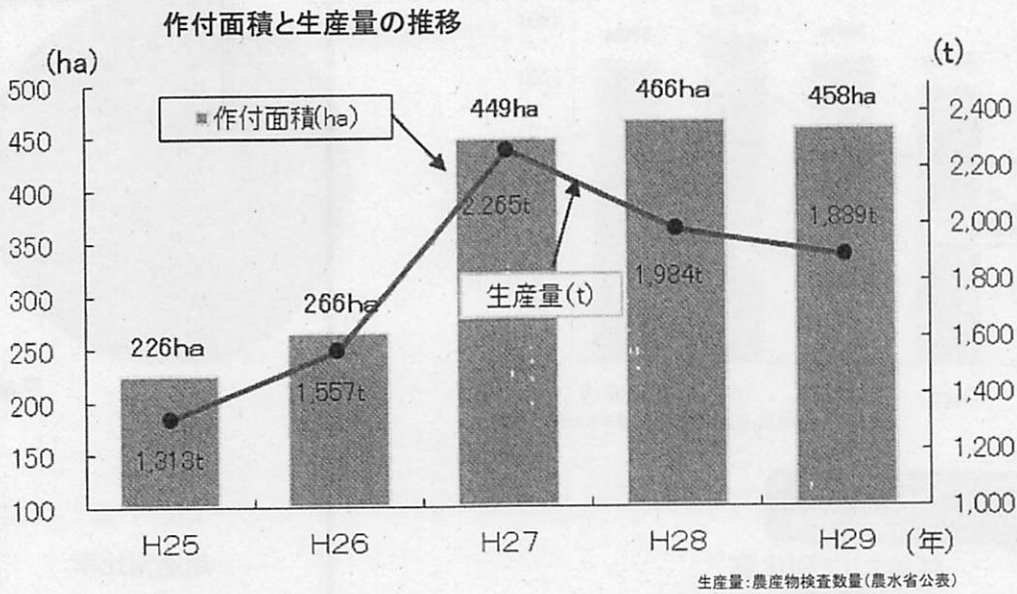
【弱いところ】

- ・業務用が増加しているため、安価な加工用米と競合している！
- ・餅の消費が減退

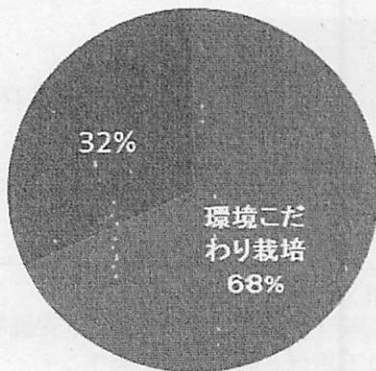
「酒造好適米」

- 主要品種は「吟吹雪」、「玉栄」、「山田錦」の3品種で、地域ブランドとして「滋賀渡船6号」が作付されている。
- 4品種の作付面積はH27以降、横ばい
- 環境こだわり米の面積比率は68%
- 県内の蔵元33業者が県内産を購入
- 「吟吹雪」、「玉栄」は県内の需要を満たしたうえで、県外へも流通

生産

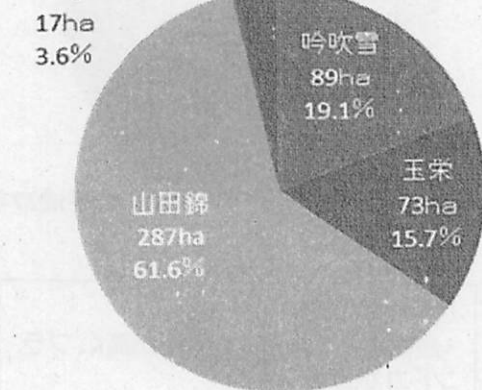


環境こだわり栽培面積の比率



平成27年産

酒米の品種構成

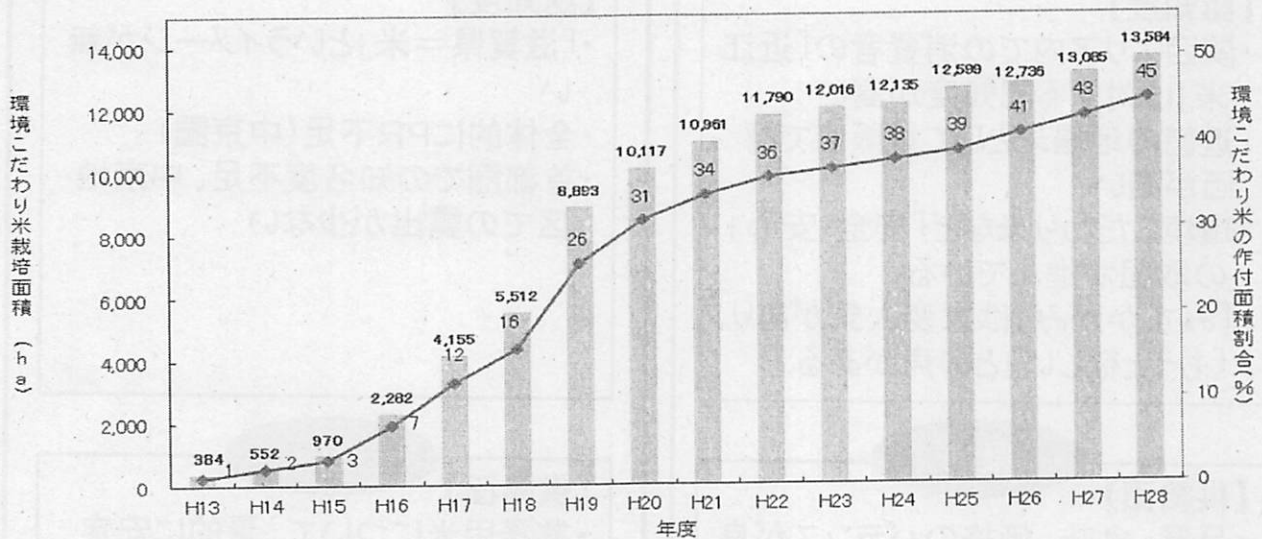


平成29年産

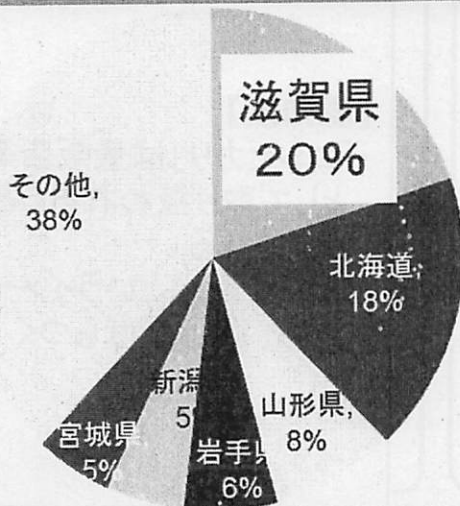
(3)環境こだわり米の生産動向

- ☞ 化学肥料と農薬の使用量を低減し、琵琶湖や環境等に配慮した取組で栽培する環境こだわり米は、水稻作付の概ね半分の面積で取り組まれています。
- ☞ 「コシヒカリ」や「みずかがみ」をはじめとする環境こだわり米は、主に県内や京阪神地域へ流通しています。
- ☞ 引き続き、消費者の農産物に対する安全・安心志向や環境保全に対する意識の高まりに対応するため、滋賀県農業のスタンダードとして進めることとしています。

【環境こだわり米栽培面積の推移】



平成28年度環境保全型農業直接支払交付金
取組状況



環境こだわり農産物



農薬・化学肥料
通常の5割以下

びわ湖にやさしい

滋賀県認証

※環境こだわり米生産に取組む生産者の約95%が当該交付金の交付対象になっている

「環境こだわり農産物認証マーク」

4 近江米の特徴(強みと弱み)

平成27年産近江米流通状況調査
県内外卸売業者の評価から

強み

県外

【供給面】

- ・品質、食味、価格が安定している
- ・大消費地である近畿圏の実需者への地の利がある
- ・「キヌヒカリ」や「日本晴」は安定した需要がある

【認知度】

- ・関西エリア内での消費者の「近江米」に対する認知度が高い
- ・近畿の地場米として量販店で評価が高い
- ・環境こだわり米など「安全・安心」の取組が進んでいる
- ・「みずかがみ」は大変人気があり、「もっと欲しい」との声がある

県内

【供給面】

- ・品質、食味、価格のバランスが良い
- ・関西圏では販売しやすい
- ・「みずかがみ」は出回り時期が早く、品質も良い

【認知度】

- ・県内では、「地元の米」として支持率が高い
- ・環境こだわり米の普及や県民の環境意識の高さから、「安全・安心」のイメージが強い
- ・味が良いので、消費者がリピーターになる確率が高い

弱み

県外

【供給面】

- ・「コシヒカリ」中心の作付であり、業務用銘柄が少ない
- ・年によって品質(乳白、着色)や収量にバラツキがある
- ・品種が多すぎる

【認知度】

- ・「滋賀県＝米」というイメージが無い
- ・全体的にPR不足(中京圏)
- ・首都圏での知名度不足、中京地区での露出が少ない

県内

【供給面】

- ・業務用米について、量的に安定供給ができていない
- ・品質、収量ともに低下している

【認知度】

- ・「コシヒカリ」は量販店等で特売品として取り扱われることが多い目にされる
- ・米の名産地というイメージが無いため、評価がばらつく

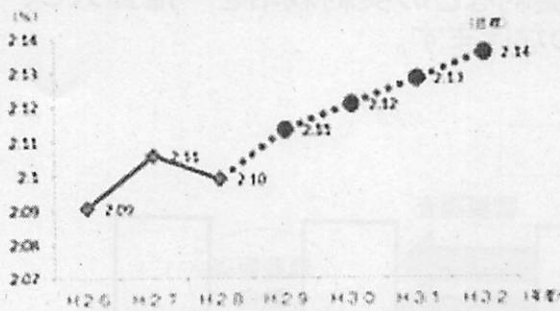
～強みを最大限に活かし、弱みを小さく～

5 目標

【平成32年産】

- ①全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア 2.14%へ！
～現状(H28年産)より0.04%アップ～
- ②集荷数量に占める事前契約数量の割合 80%へ！
～現状(H28年産)より9%アップ～

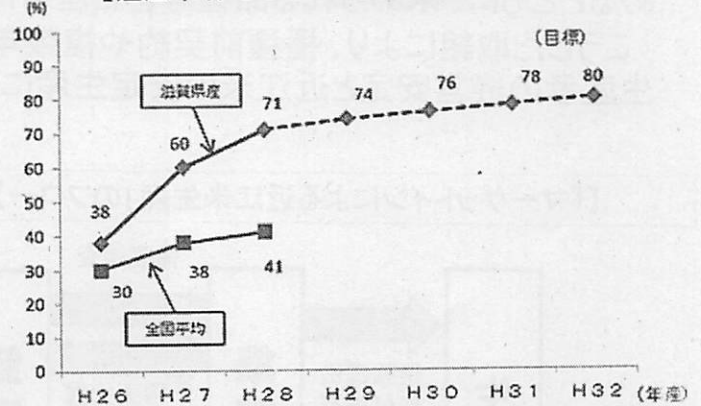
【全国に占める近江米の需要量シェア】



	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
シェア (%)	2.09	2.14	2.10	2.12	2.12	2.13	2.14
需要量 (千トン)	144	151	158	158	157	156	154
生産量 (千トン)	7,525	7,662	7,545	7,665	7,620	7,312	7,225

需要量 = 当年産主食用米等生産量 + 当年6月末民間在庫量 - 翌年6月民間在庫量

【近江米(うるち米)の事前契約率】



集荷数量に占める事前契約数量の割合。H26～H28は農林水産省公表値、事前契約は、複数年契約、播種前契約、収穫前契約をいう

【基本的な考え方】

- ➡ 作付面積の減少幅を極力小さくし、全国に占める滋賀県の需要量シェアを維持・向上します
- ➡ 県内や京阪神を中心に、品種別・用途別の需要を積み上げ、それに基づく生産（マーケットイン）を推進します
- ➡ 播種前契約、複数年契約などの契約栽培を進め、安定した取引を加速します
- ➡ 家庭用には、主に環境こだわり米など特色ある米づくりを推進し、近江米の販路拡大と需要の確保に取り組みます
特に、滋賀ならではの「みずかがみ」、「魚のゆりかご水田米」、今後推進する「オーガニック米」等は首都圏での情報発信に努め、近江米のブランド力を高めます
- ➡ 「キヌヒカリ」、「秋の詩」、「日本晴」（結び付きのないもの）等について、低コストによる多収栽培を進め、増加しつつある業務用需要にも対応します
- ➡ 飼料用米など非主食用米については、不作付地、麦、大豆の不適地、集団栽培が定着していない地域を中心に、需要量や特徴を踏まえて作付を推進します

なお、農業者の皆さんが直接、消費者や実需者等に販売する主食用米は、自らの経営努力で需要を確保されているものとし、本ビジョンでは集荷業者が取り扱う主食用米を中心とします。

6 今後の近江米生産・流通の方向性

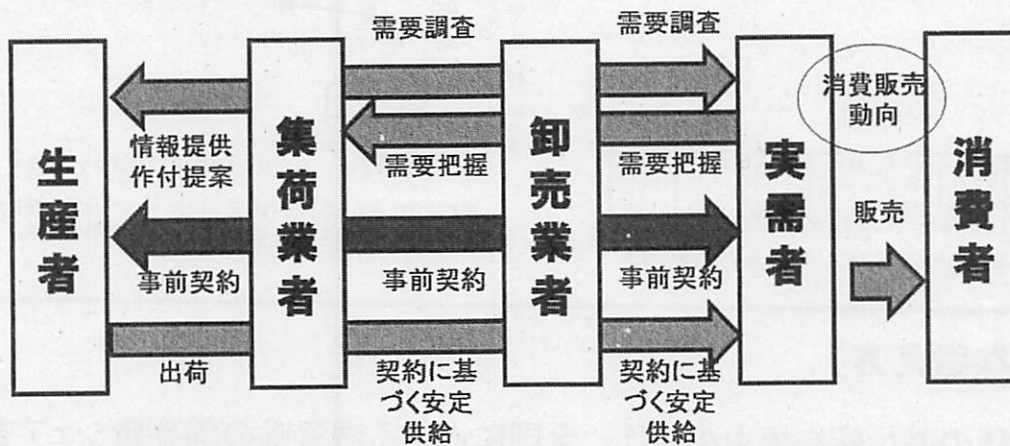
(1) マーケットインの取組

今後、産地間競争に打ち勝つためには、新たな需要の確保とともに、消費者や流通関係者が求める品種や品質の米について、必要な量を生産し、確実に供給する必要があります。

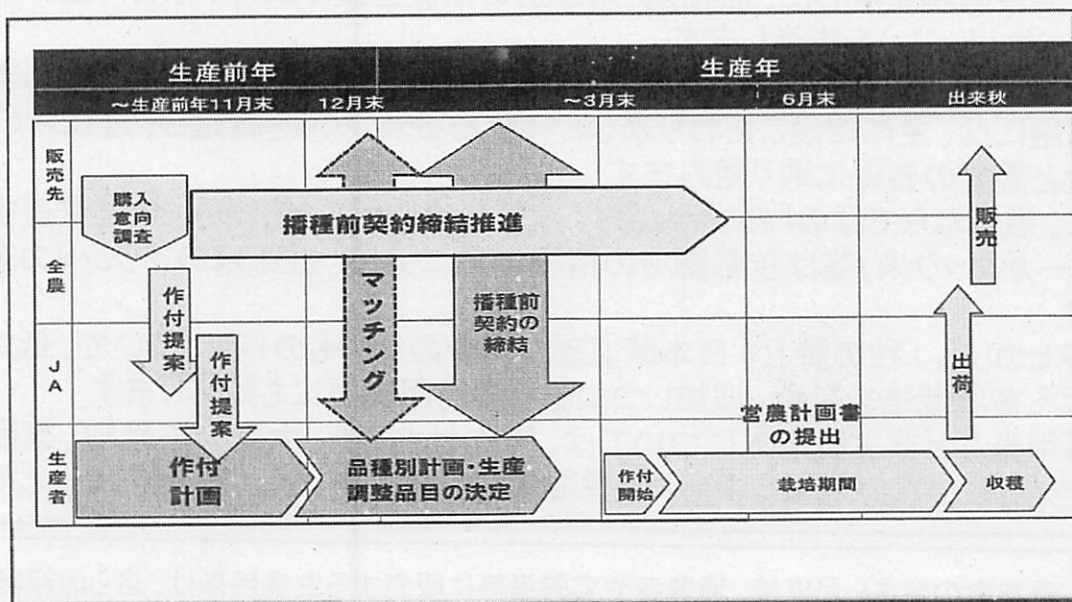
このため、卸売業者等との意見交換やPRの強化などによって需要の確保に努めるとともに、求められる品種等を生産者にしっかりと伝えマッチングを図ります。

こうした取組により、播種前契約や複数年契約などの契約栽培を一層拡大し、生産者の経営安定と近江米の安定生産につなげます。

【「マーケットインによる近江米生産」のフロー】



【推進のスケジュール】

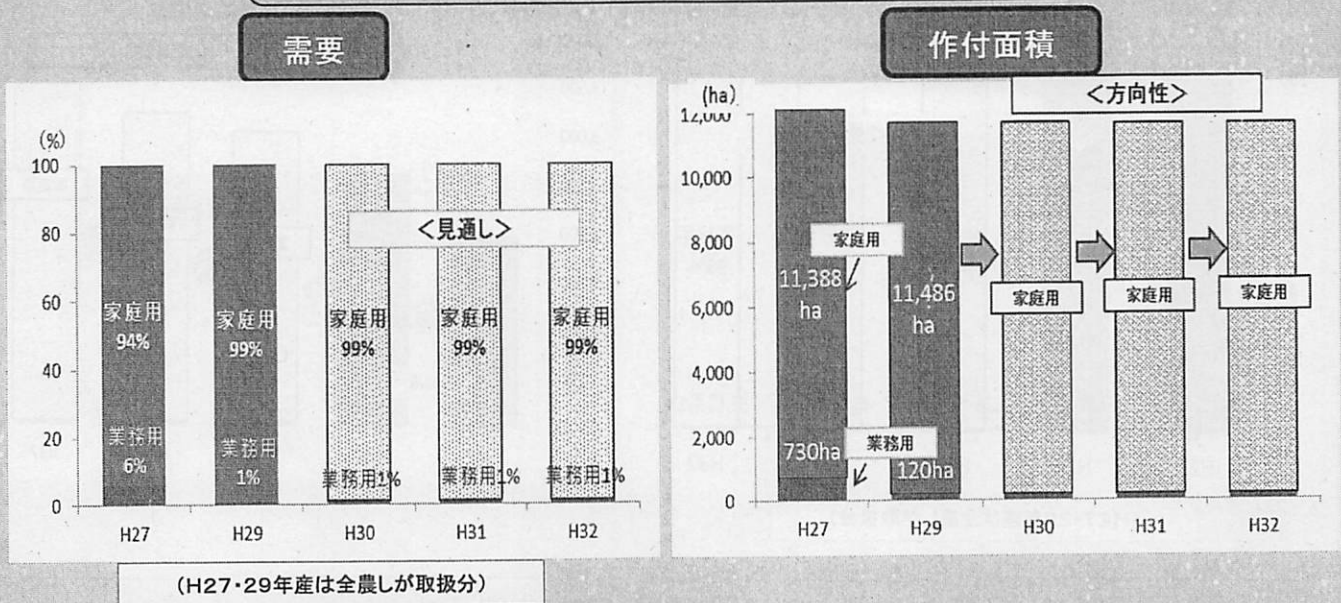


(2) 品種別・用途別の販売ターゲットと作付の方向

「コシヒカリ」

- 近江米「コシヒカリ」として、主に「家庭用」として生産を維持します
- 「環境こだわり栽培」を推進し、その比率を高めます
- 食味を高位安定化し、食味ランキングでの「特A」を取得するなど、高品質生産を徹底します
- オーガニック栽培や魚のゆりかご水田米も推進します
- 県内をはじめ京阪神を中心に販売します

用途別の需要動向と作付面積のイメージ
(平成27年産 → 平成32年産)



今後の生産方向
(平成30年産～)

全体



家庭用



業務用

一部は高級な
外食・中食向け

用途と栽培方法

家庭用

高 ← 価格 → 低

業務用

高 ← 価格 → 低

魚のゆりかご水田米

オーガニック栽培

環境
こだわり
栽培

供給先

県内
京阪神

量販店
生協
等

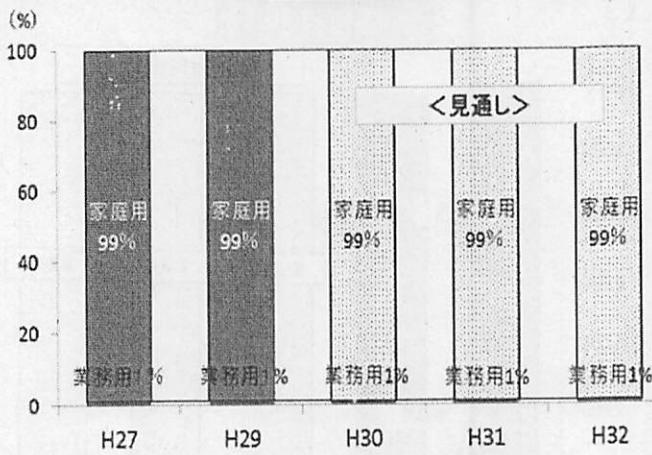
主に家庭用として生産を維持

「みずかがみ」

- 「家庭用」として生産拡大を図ります
- 全量を環境こだわり米として生産します
- 食味ランキングにおける「特A」の継続取得、プレミアム「みずかがみ」の生産など、一層の品質・食味向上を推進します
- 安定的に収量を確保する技術対策に取り組みます
- 県内、京阪神に加え、首都圏・中京圏も視野に販路を拡大します

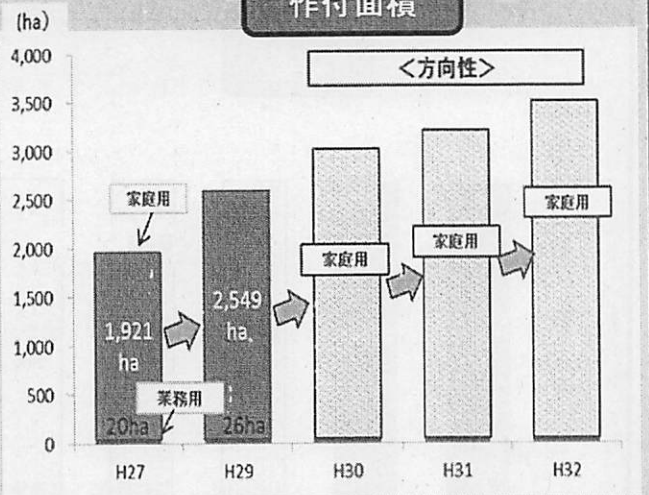
用途別の需要動向と作付面積のイメージ (平成27年産 → 平成32年産)

需要



(H27・29年産は全農しが取扱分)

作付面積



今後の生産方向 (平成30年産～)

全体

家庭用

業務用

一部にはPR効果の高い業務用にも対応

用途と栽培方法

家庭用

高 ← 価格 → 低

業務用

高 ← 価格 → 低

プレミアム
みずかがみ

環境
こだわり
栽培

供給先

県内
京阪神
首都圏・中京圏にも
拡大

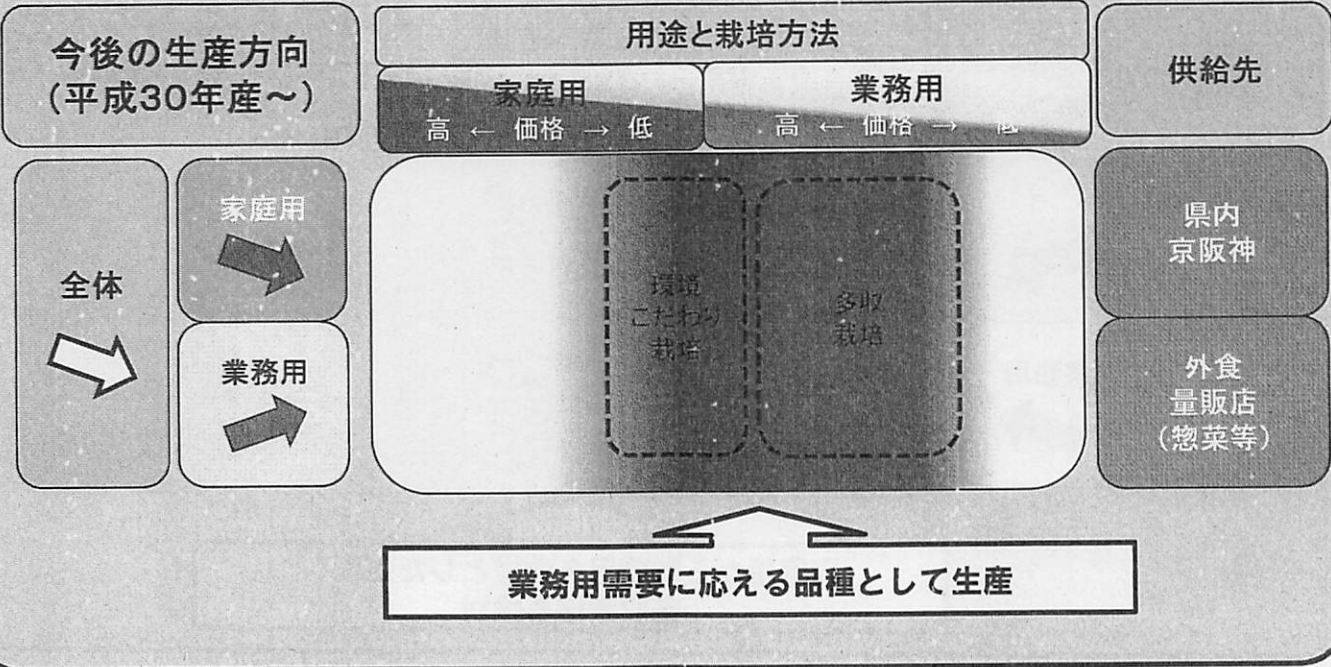
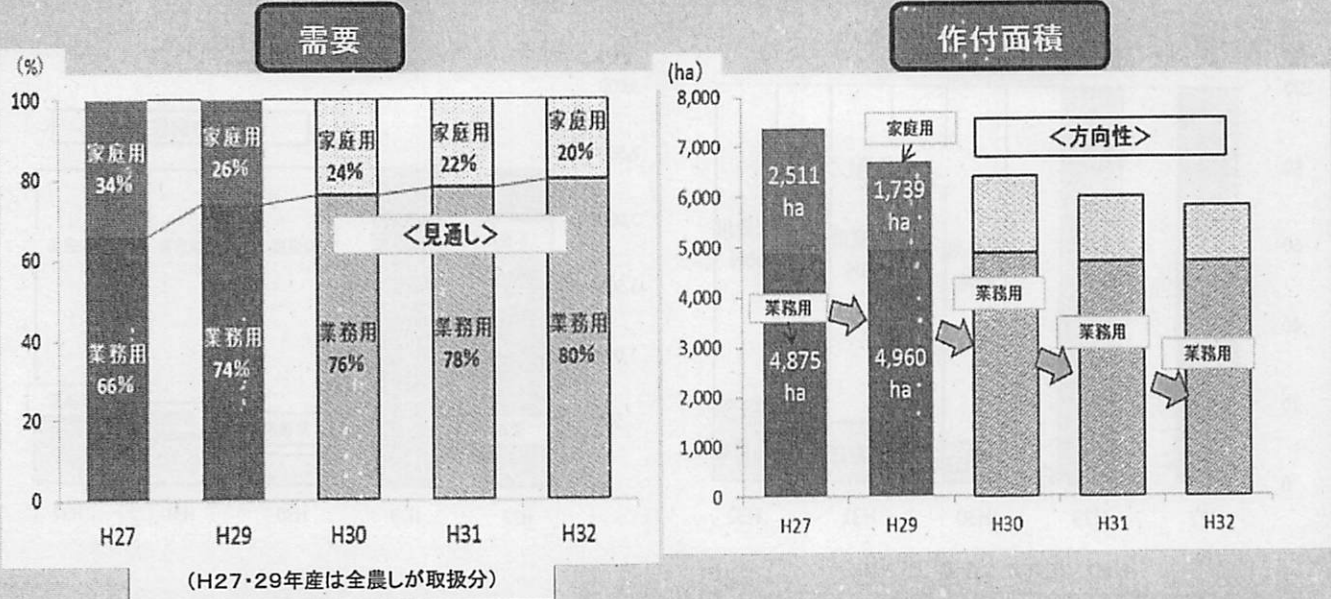
量販店
生協
等

家庭用として生産を拡大

「キヌヒカリ」

- 「家庭用」の生産は縮小し、「業務用」の需要に応える品種として生産します
- 「環境こだわり米」として、これまで結びつきのある取引は維持するとともに、その他の部分は「みずかがみ」、「コシヒカリ」の環境こだわり米への転換を進めます
- 生産コストを削減し、多収を目指す栽培方法も推進します
- 県内、京阪神を中心に供給します

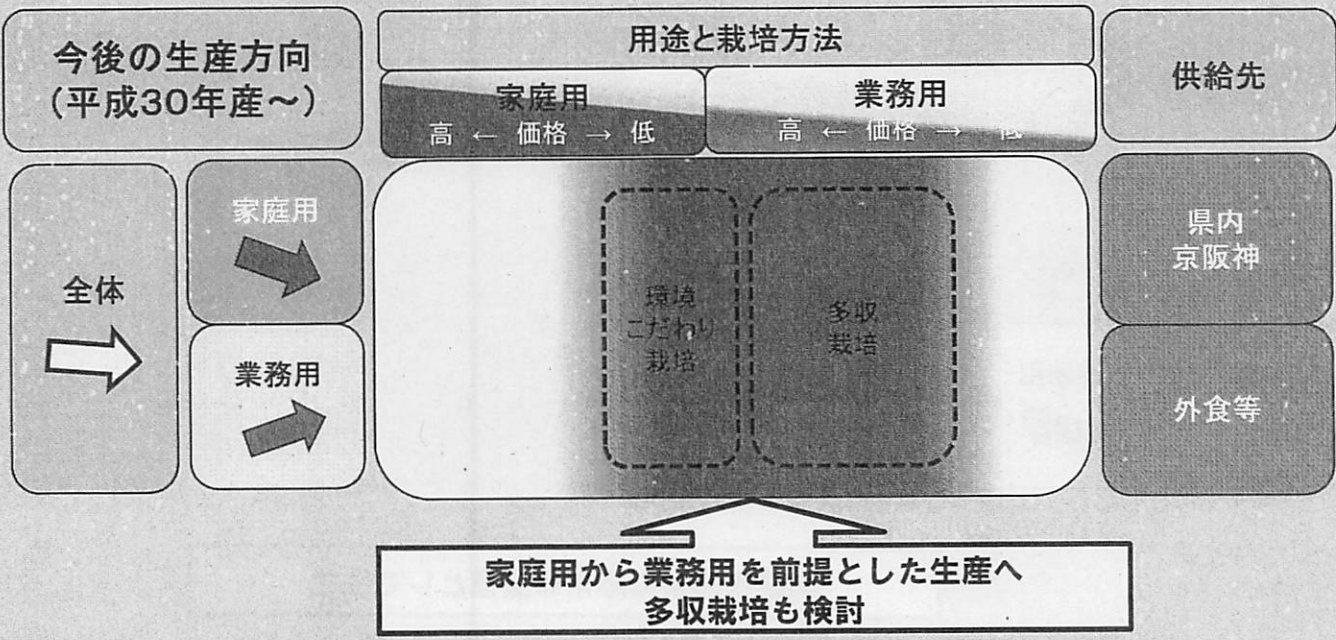
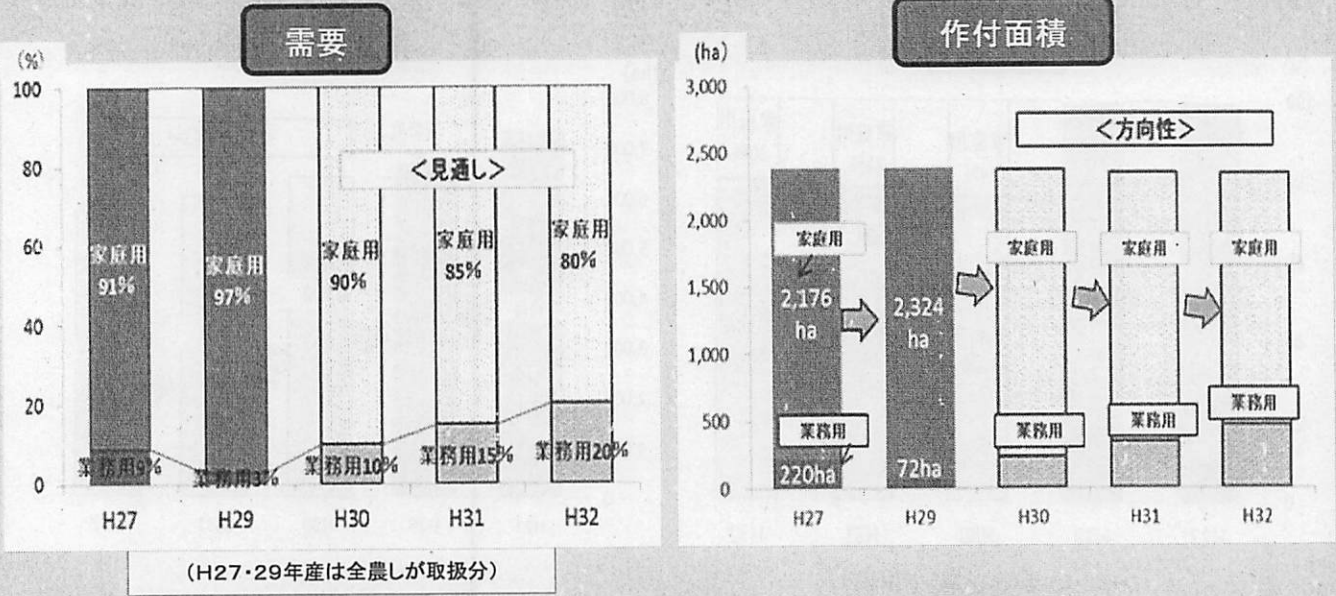
用途別の需要動向と作付面積のイメージ
(平成27年産 → 平成32年産)



「秋の詩」

- 「家庭用」の生産は縮小し、「業務用」需要に応える品種として生産します
- 「環境こだわり米」としての結びつきは維持するとともに、結びつきのない部分は「みずかがみ」、「コシヒカリ」の環境こだわり米への転換を進めます
- 生産コストを削減し、多収を目指す栽培方法も推進します
- 県内、京阪神を中心に供給します

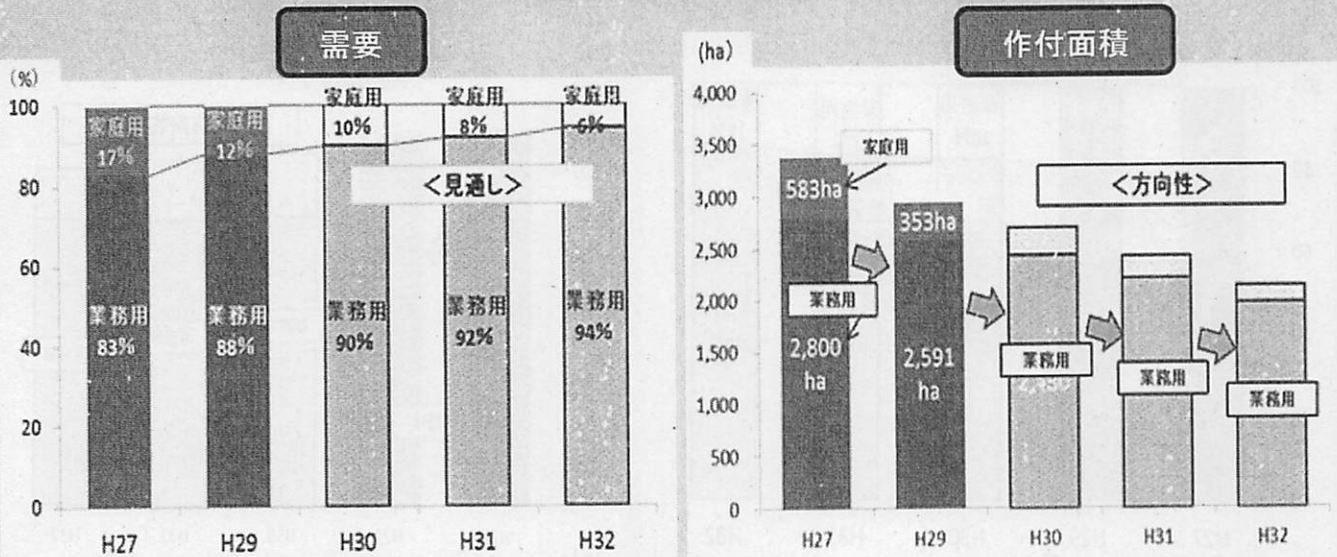
用途別の需要動向と作付面積のイメージ
(平成27年産 → 平成32年産)



「日本晴」

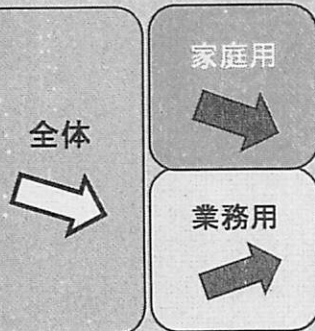
- 「家庭用」の生産は縮小し、「業務用」需要に応える品種として生産します
- 「環境こだわり米」として、これまで結びつきのある取引は維持するとともに、その他の部分は「みずかがみ」、「コシヒカリ」の環境こだわり米への転換を進めます
- 多収を目指す栽培方法も推進します
- 海外への輸出を視野に入れた検討を進めます（新規需要米）

用途別の需要動向と作付面積のイメージ (平成27年産 → 平成32年産)



(H27・29年産は全農しが取扱分)

今後の生産方向 (平成30年産～)



用途と栽培方法



供給先

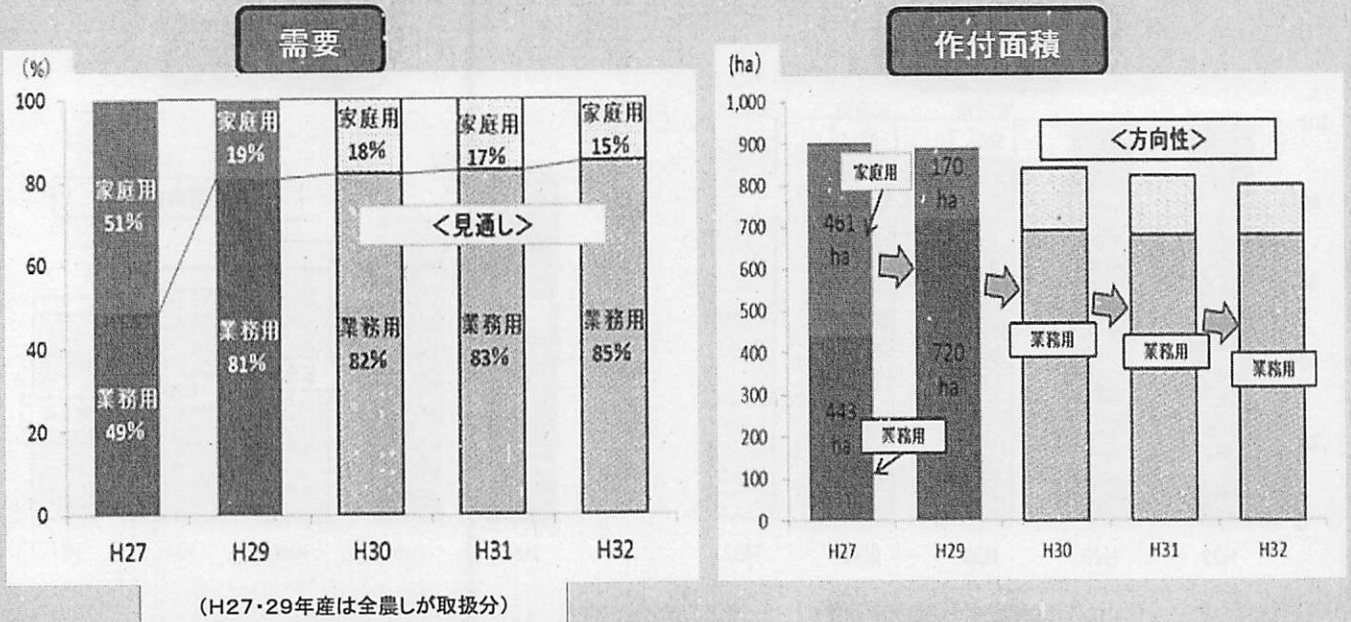


業務用として生産
多収栽培、輸出用（新規需要米）として検討

「滋賀羽二重糯」

- 全国的に需給が緩和しています
- 繰越在庫の増加が見込まれます
- 業務用を中心とした需要動向に合わせ、契約栽培の範囲内での生産とし、必要以上の生産量を抑える方向です

用途別の需要動向と作付面積のイメージ (平成27年産 → 平成32年産)



今後の生産方向
(平成30年産～)

用途と栽培方法

供給先

全体

家庭用

家庭用

業務用

高 ← 価格 → 低

高 ← 価格 → 低

県内
京阪神
中京圏
等

加工業者
量販店
等

環境
こだわり
栽培

業務用を中心に生産

「その他品種」

- 結びつきのある品種については、その範囲での生産を維持します
- 結びつきのない品種は、「みずかがみ」などの主要品種への転換(銘柄集約)を進めます

【県内事例1】

「レーク65」

- 業務用(寿司)として作付
- 寿司チェーンとの契約栽培

【県内事例2】

「あきたこまち」

- 大型量販店、生協との契約、家庭用として作付
- 環境こだわり米として生産

今後の生産方向
(平成30年産～)

結び付きのあるもの



結び付きのないもの



「酒造好適米」

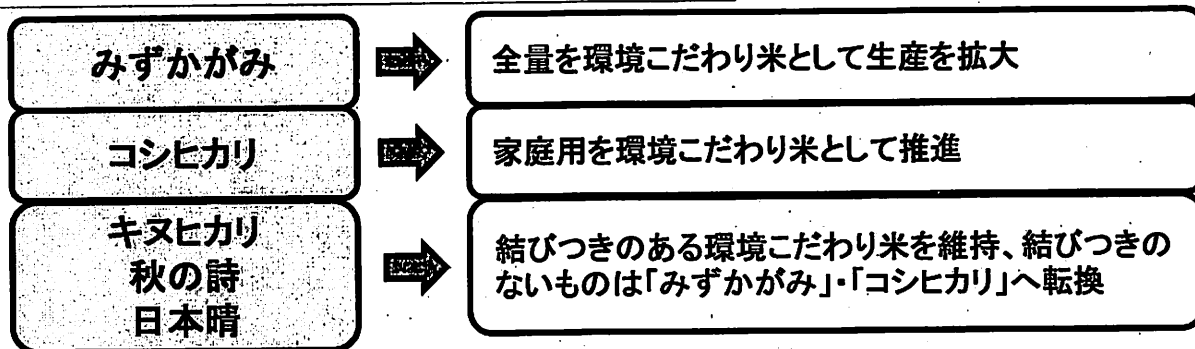
- 全国的な需給は、生産量が急増した平成27年産から緩和の状況にあります
- 需給均衡のためには平成28年産と比較して、生産量を約1割減らす必要があるとされています
- 県内蔵元をはじめとする実需者の品種ごとのニーズに基づき、契約栽培による安定取引を進めます
- 醸造適性の向上に向けた品質改善、新品種の選定を進めます

(3)環境こだわり米の生産

◆ 環境こだわり米の位置づけ

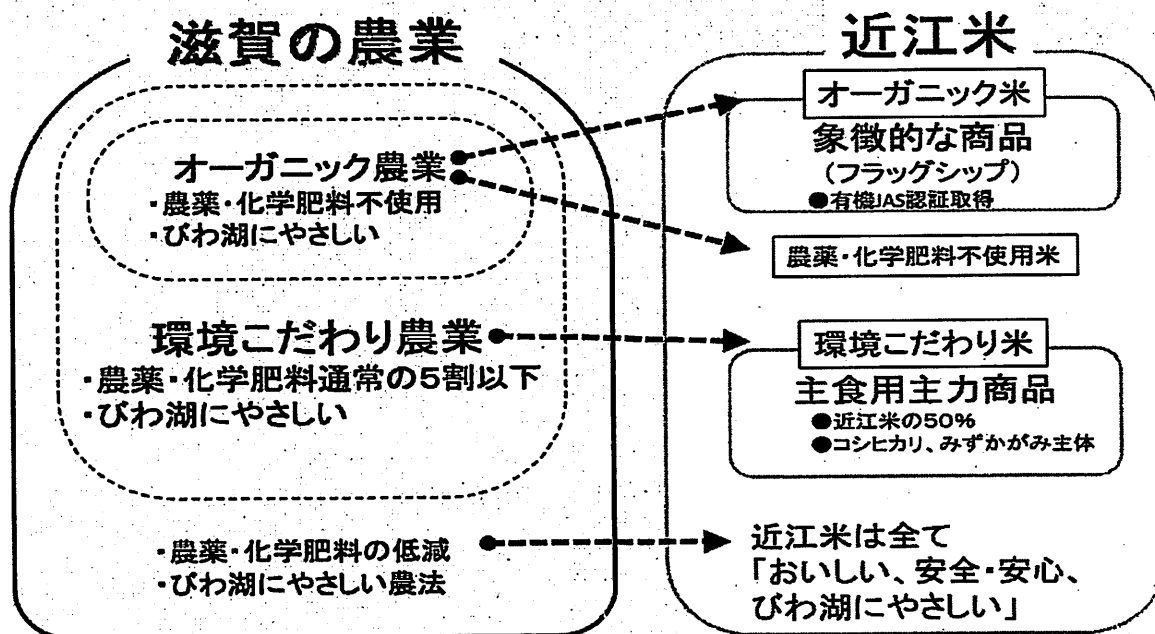
- ☞ 消費者の農産物に対する安全・安心志向や環境保全に対する意識の高まりに対応するため、滋賀県農業のスタンダードとして引き続き推進します
- ☞ さらに、本県の環境こだわり農業が全国一の取組(環境保全型農業直接支払の取組面積第1位)であること、生産者が国民的資産である琵琶湖の環境保全のために努力していることを「美味しさ」とともに県内外に発信し、販路の拡大に努めます

【主な品種の環境こだわり米推進のイメージ】



◆ 深化の方向

- ☞ 環境こだわり農産物の一層のブランド力の向上と消費拡大を図ります
- ☞ さらなる琵琶湖等の環境保全、安全・安心な農産物の供給へとつなげていくため、環境こだわり農業をさらにステップアップさせたオーガニック農業などのより高度な取組を推進し、環境こだわり農業全体の底上げを図ります



【オーガニック農業とは】

化学合成農薬・化学肥料を使用しないこと、ならびに遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業

(4)近江米のPR戦略

<県内>

- ☞消費者に向けて、新たな需要を開拓するため、SNS等を活用した若い世代への情報発信を進めます

<京阪神>

- ☞消費者に向けて、「安全、安心と美味しさ」と健康、琵琶湖を守る取組をテレビCMやトッププロモーションによりPR・情報発信します
- ☞卸売業者向けに、業務用など需要に応じた生産の取組等をPRします

<首都圏>

- ☞首都圏の強い発信力を活かして、「ここ滋賀」等から全国に向けて近江米の魅力を発信します(全て環境こだわり米である「みずかがみ」の取組の他、特にオーガニックの取組や魚のゆりかご水田米等)
- ☞小売店等向けに、オーガニック米などのマッチングの機会を創設します

<海外>

- ☞JETRO滋賀と連携し、海外需要を探りながら、寿司米やパックライス等のプロモーションを実施します



情報発信拠点
「ここ滋賀」
東京日本橋にオープン



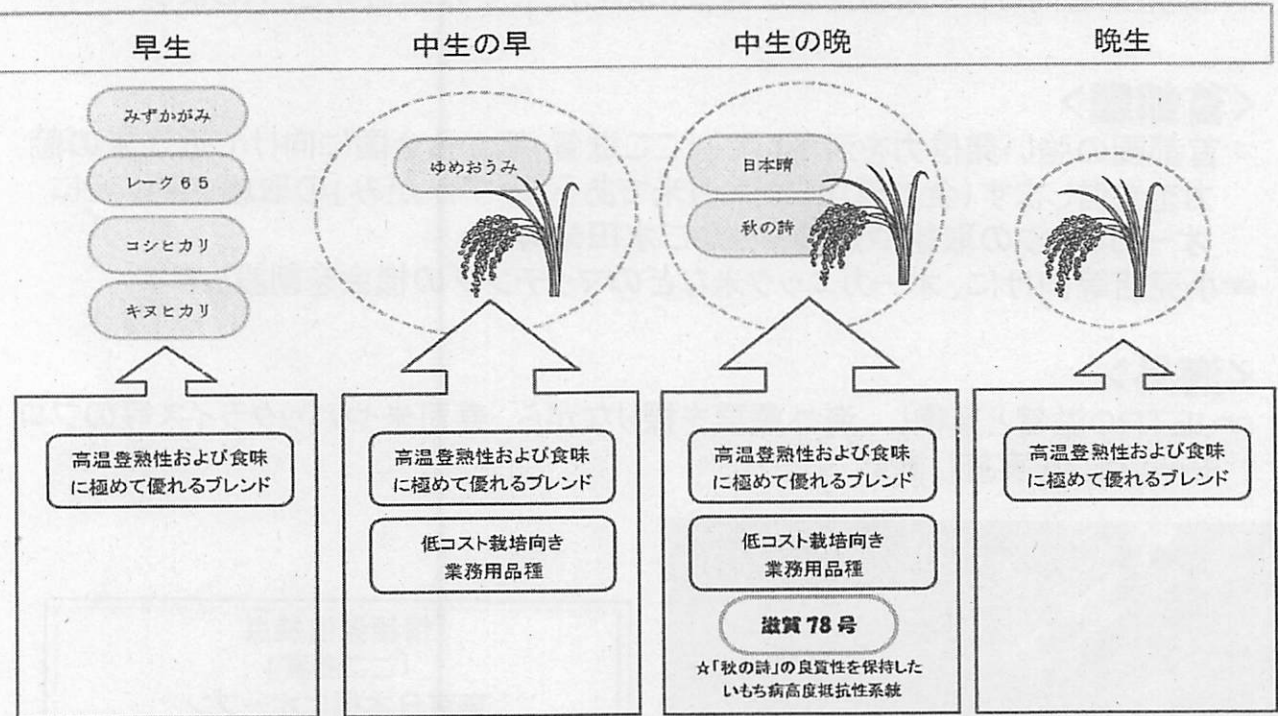
近江米おむすびコンテスト(ここ滋賀)

(5)新品種の育成方向

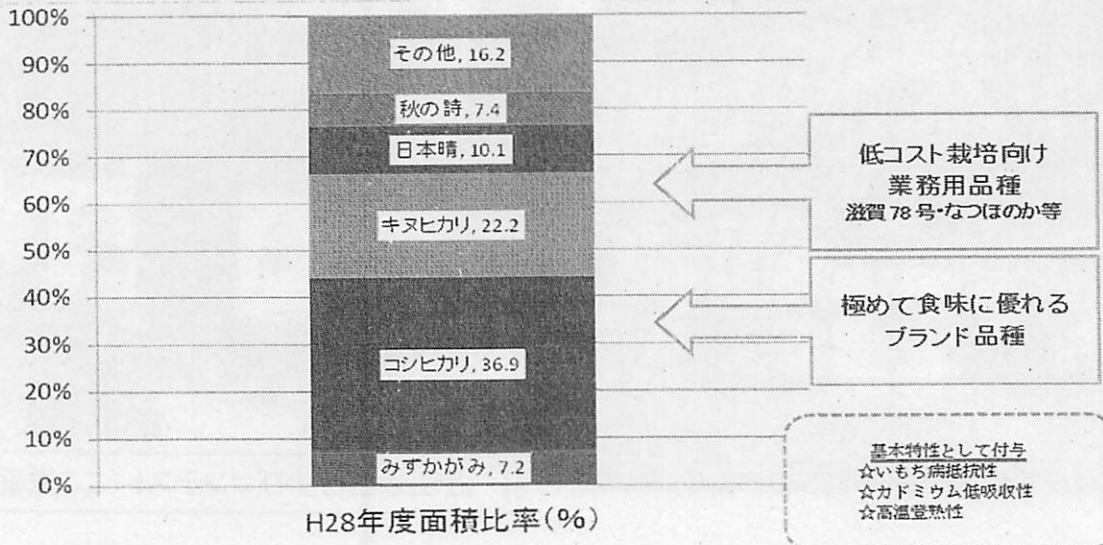
- 良食味を基本に、収量性、高温登熟性、耐倒伏性、さらにもち病抵抗性など農薬削減、安全・安心につながる品種の育成を目指します
- 良質で醸造適性に優れた酒米の品種を選定します
- 中長期的には食味ランキングにおいて、安定して「特A」を取得できる極良食味のブランド品種を育成します

成熟期別奨励品種の現況と品種開発の方向

○ : 奨励品種 ○ : 直近の開発ターゲット

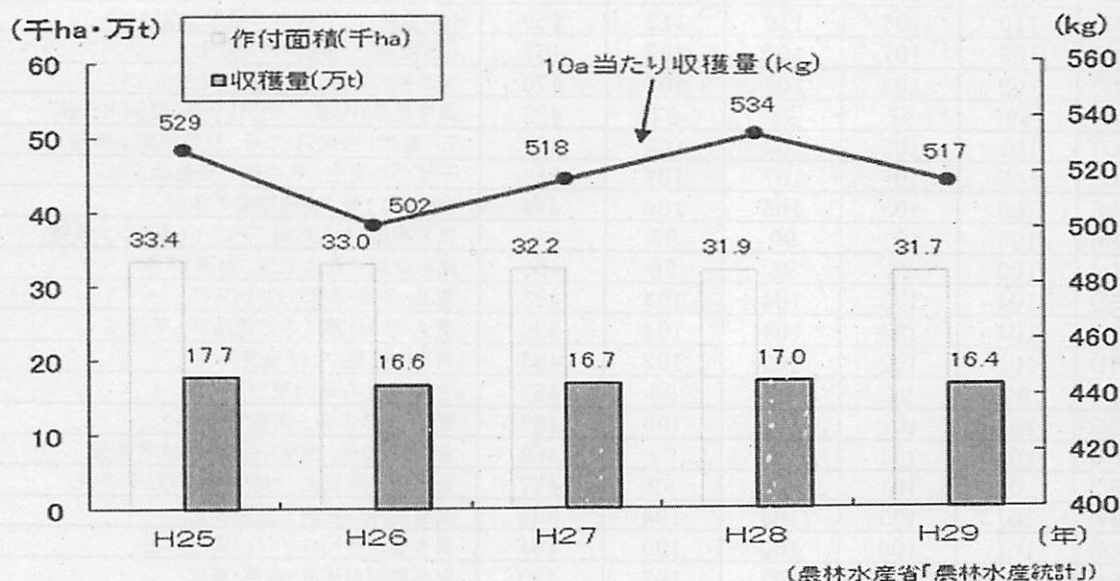


戦略的水稲品種の育成・選定方向

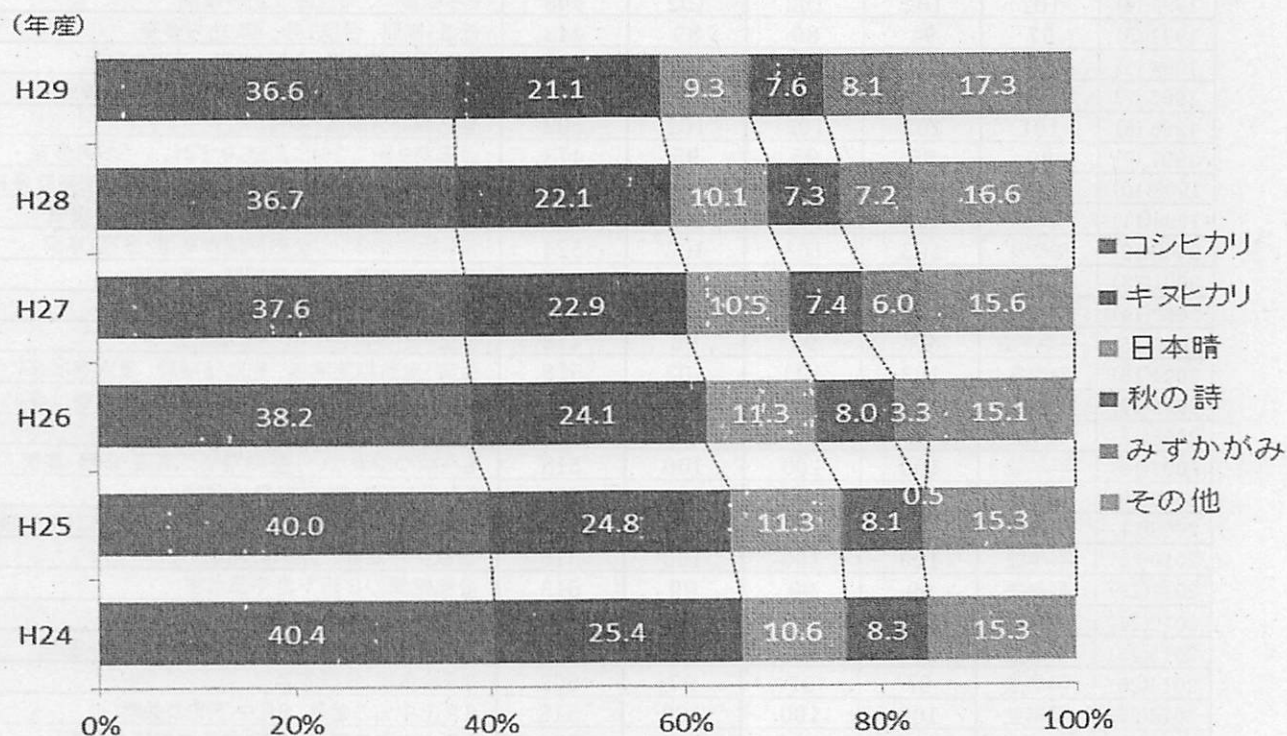


7 その他(近江米に関する参考データ)

<作付面積等の推移>



<主要品種別作付割合の推移>

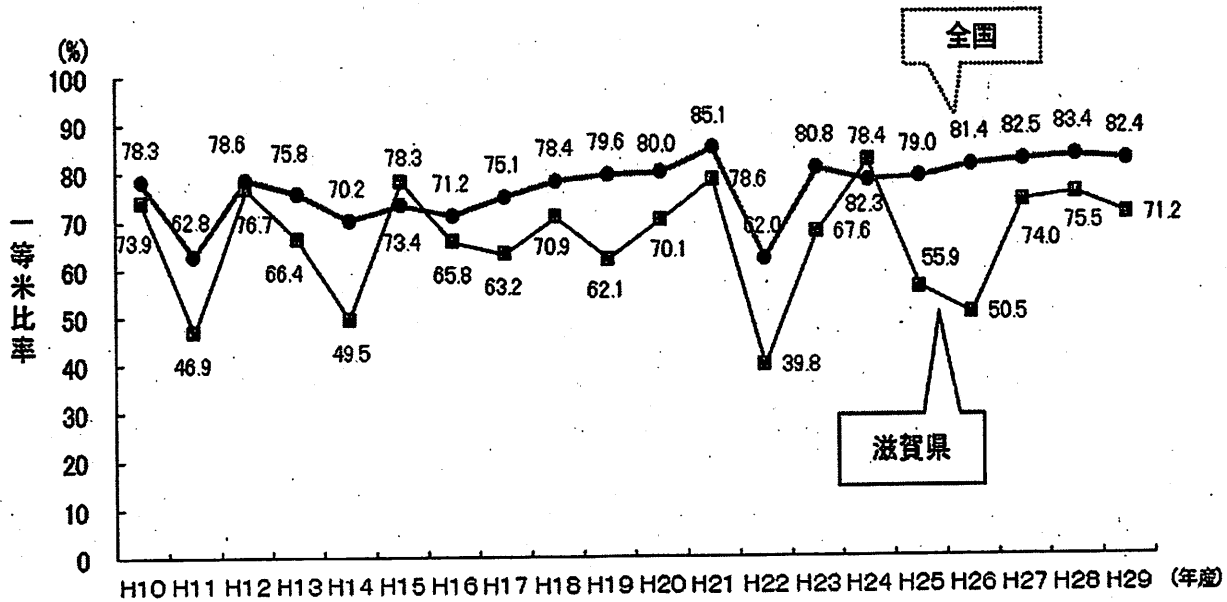


<作柄の推移>

年次	作況指数				10a当たり 収量(kg) (収穫期)	作柄および被害の概要
	8月15日	9月15日	10月15日	収穫期		
1966(S41)	107	110	108	108	425	ウンカ、穂首いもち大発生
1967(42)	110	115	119	119	472	好気象及び栽培技術の向上
1968(43)	110	108	110	112	469	もみ数多い、病害虫の発生少ない
1969(44)	105	107	107	107	467	もみ数多い、夏ウンカ大発生
1970(45)	102	104	106	107	470	登熟期の好天、病虫害の発生少ない
1971(46)	99	97	94	94	425	異常気象(冷夏)、台風29号、野洲川決壊
1972(47)	101	102	104	104	471	7月豪雨、台風第20号、登熟期間が多照
1973(48)	105	105	107	107	488	干ばつの発生、病虫害の発生は少ない
1974(49)	103	103	106	106	494	台風第11号、登熟期間の多照
1975(50)	103	101	99	99	467	異常高温、いもち病、干ばつ、秋ウンカ多発
1976(51)	100	98	96	96	455	登熟期間の異常低温、台風17号
1977(52)	104	103	104	104	493	高温・多照・寡雨で登熟良好
1978(53)	104	104	104	104	490	高温・多照・寡雨の気象条件、干ばつ
1979(54)	101	102	102	102	485	病害の発生少、穂発芽発生
1980(55)	99	96	96	95	453	冷夏、いもち病大発生
1981(56)	101	101	101	100	483	夏ウンカの多発、被害は少ない
1982(57)	103	101	98	97	469	台風第10号、穂首いもち、紋枯病多発
1983(58)	102	101	99	99	477	登熟期の高夜温、秋ウンカ、紋枯病多発
1984(59)	101	103	104	104	505	高温・多照・寡雨で登熟良好
1985(60)	101	100	100	100	484	高夜温、ツマグロヨコバイの異常発生
1986(61)	100	101	103	103	499	登熟期間が高温・多照・寡雨
1987(62)	102	101	101	101	493	秋ウンカの発生
1988(63)	100	100	101	101	491	もみ数やや多い
1989(H1)	100	100	98	98	480	登熟期間に相次ぐ台風襲来、いもち病の多発
1990(2)	101	101	100	100	494	相次ぐ台風や秋雨前線の停滞、穂発芽の発生
1991(3)	99	100	100	100	494	もみ数やや少ない、登熟は順調
1992(4)	102	102	102	102	503	もみ数多い、高夜温で登熟緩慢
1993(5)	97	94	89	89	443	低温・寡照、台風7号、穂いもち多発
1994(6)	106	105	106	106	525	生育期間が高温・多照・寡雨、干害の発生
1995(7)	100	102	102	102	509	5月中旬に大雨で冠水、登熟期間が高温・多照
1996(8)	101	102	102	102	509	登熟期間が高温・多照
1997(9)	99	95	95	95	473	台風第9号(7/26)によるもみずれ、いもち病多発
1998(10)	102	102	99	99	497	台風第7号・8号及び秋雨前線の停滞で穂発芽多発
1999(11)	103	101	101	101	508	もみ数多、出穂期の強風、高夜温で登熟緩慢
2000(12)	やや良	103	103	103	524	もみ数やや多い、登熟期間が高温・多照・寡雨
2001(13)	やや良	102	102	102	517	もみ数やや多い、登熟期間が高夜温
2002(14)	やや良	101	101	101	516	生育・登熟期間が高温、少雨
2003(15)	やや不良	93	93	93	478	低温・日照不足・いもち病大発生
2004(16)	やや良	103	103	103	528	生育・登熟期間高温、登熟は順調、風水害は多い
2005(17)	やや良	103	103	103	535	生育・登熟期間高温、登熟は順調、風水害は多い
2006(18)	平年並	99	99	99	513	日照不足による穂数減、登熟は順調
2007(19)	平年並	100	100	100	518	もみ数やや少ない、登熟期間が高温・多照・寡雨
2008(20)	やや良	102	102	102	530	もみ数もやや多い、登熟は順調
2009(21)	平年並	99	99	99	512	初数平年並み、8月上旬の曇雨天で登熟がやや緩慢
2010(22)	平年並	100	100	100	516	初数平年並み、登熟は順調
2011(23)	平年並	99	99	99	513	登熟期間の日照不足や風水害
2012(24)	平年並	102	102	102	529	登熟期間が高温・多照
2013(25)	平年並	102	102	102	529	もみ数やや多い、登熟期間が高温・多照・寡雨
2014(26)	平年並	97	97	97	502	8月の多雨、日照不足
2015(27)	平年並	100	100	100	518	8月上中旬の猛暑、9月中下旬の長雨
2016(28)	やや良	104	104	104	534	8月上中旬の猛暑・多照、9月中以降の長雨
2017(29)	平年並	100	100	100	517	有効茎歩合の低下、出穂後の日照不足

※2,000年(12)から8月15日現在の作況は「作柄概況」に変更

<1等米比率の推移>



農林水産省「農産物検査結果(水稲うるち玄米)」
(H29:平成29年12月31日現在)

年産	1等比率 (%)							滋賀県産うるち玄米における2等以下格付け理由					
	全国		滋賀県					1位		2位		3位	
	全うるち	うるち	コシヒカリ	カメムシ	日本晴	秋の陣	みずのぼろ	理由	割合	理由	割合	理由	割合
1994(H6)年産	72.7	86.3	89	84	93	-	-	形質	36.2	被害粒	30.4	着色粒	11.3
1995(H7)年産	81.8	92.5	97	93	96	-	-	被害粒	34.8	形質	19.8	着色粒	17.4
1996(H8)年産	87.2	94.2	93	96	97	-	-	形質	50.2	整粒不足	20.0	被害粒	13.1
1997(H9)年産	80.1	92.5	91	90	98	-	-	胴割	47.6	その他未熟	19.6	心白・乳白	6.2
1998(H10)年産	78.3	73.9	91	91	50	-	-	発芽粒	69.6	心白・乳白	10.3	胴割	6.7
1999(H11)年産	62.8	46.9	32	34	74	-	-	心白・乳白	79.8	部分カミシ	10.5	発芽粒	2.4
2000(H12)年産	78.6	76.7	83	66	82	-	-	胴割	47.0	部分カミシ	23.8	心白・乳白	16.8
2001(H13)年産	75.8	66.4	69	49	87	-	-	心白・乳白	62.2	胴割	10.2	部分カミシ	9.2
2002(H14)年産	70.2	49.5	40	36	82	-	-	心白・乳白	45.2	その他未熟	18.4	胴割	14.7
2003(H15)年産	73.9	77.9	80	69	87	72	-	その他未熟	41.5	心白・乳白	13.6	部分カミシ	11.2
2004(H16)年産	71.0	64.9	64	41	80	88	-	心白・乳白	41.7	整粒不足	21.4	充実度	10.6
2005(H17)年産	75.1	63.2	61	55	69	79	-	整粒不足	28.4	カメムシ類	26.9	心白・腹白	19.6
2006(H18)年産	78.4	70.9	64	72	76	79	-	整粒不足	26.7	胴割	22.0	カメムシ類	19
2007(H19)年産	79.6	62.1	65	39	73	75	-	整粒不足	36.3	心白・腹白	30.9	胴割	9.5
2008(H20)年産	80.0	70.1	72	47	82	89	-	心白・腹白	43.8	整粒不足	30.6	胴割	10
2009(H21)年産	85.1	73.6	80.1	75.8	87.3	66.5	-	心白・腹白	34.2	整粒不足	29.9	胴割	18.9
2010(H22)年産	62.0	39.8	66.3	51.6	5.0	9.0	-	心白・腹白	42.8	整粒不足	39.6	カメムシ類	6.2
2011(H23)年産	80.8	67.6	78.7	67.9	62.6	45.2	-	心白・腹白	38.0	整粒不足	37.5	カメムシ類	8.6
2012(H24)年産	78.4	82.3	87.4	76.8	77.8	84.6	-	整粒不足	28.7	心白・腹白	26.5	着色粒	13.8
2013(H25)年産	79.0	55.9	65.3	43.5	63.8	69.1	87.9	心白・腹白	49.5	整粒不足	27.8	着色粒	7
2014(H26)年産	81.4	50.5	33.7	34.7	87.2	75.8	58.1	心白・腹白	71.5	整粒不足	19.3	着色粒	3.2
2015(H27)年産	82.5	74.0	76.0	54.3	85.4	85.5	87.7	心白・腹白	36.4	整粒不足	33.0	胴割	9.2
2016(H28)年産	83.4	75.5	80.8	62.3	61.3	79.5	91.6	整粒不足	33.2	心白・腹白	28.1	胴割	15.8
2017(H29)年産	82.4	71.2	66.8	60.1	75.7	73.9	88.5	心白・腹白	44.3	整粒不足	29.7	着色粒	10.7

資料：近畿農政局資料 (2016 (H28産) はH29年10月末現在、2017 (H29産) はH29年12月末現在)

理由：格付け理由

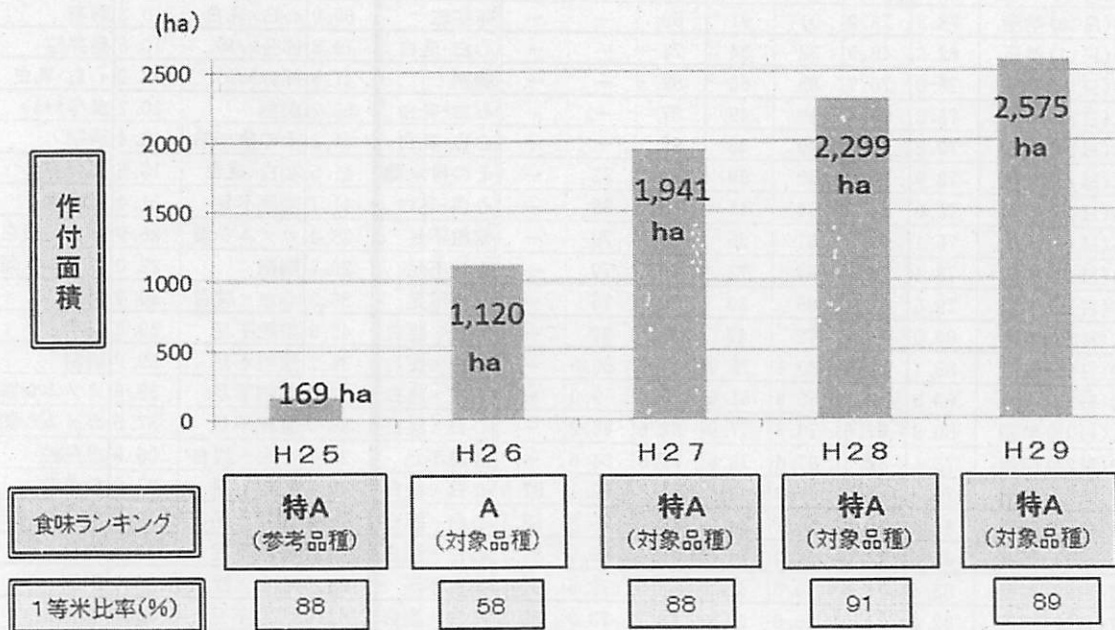
割合：2等以下に占める割合 (%)

<食味ランキングの推移>

品種	コシヒカリ	キヌヒカリ	秋の詩	コシヒカリ	秋の詩	みずかがみ
地区	湖北	湖南	湖南	全県	全県	全県
H18						
H19						
H20	A		A			
H21	A		A			
H22	A		A			
H23	A		A			
H24				A	A	
H25				A	A	特A
H26				A	A	A
H27				A	特A	特A
H28				A	A	特A
H29				A	A	特A

※平成25年産「みずかがみ」は参考品種として評価

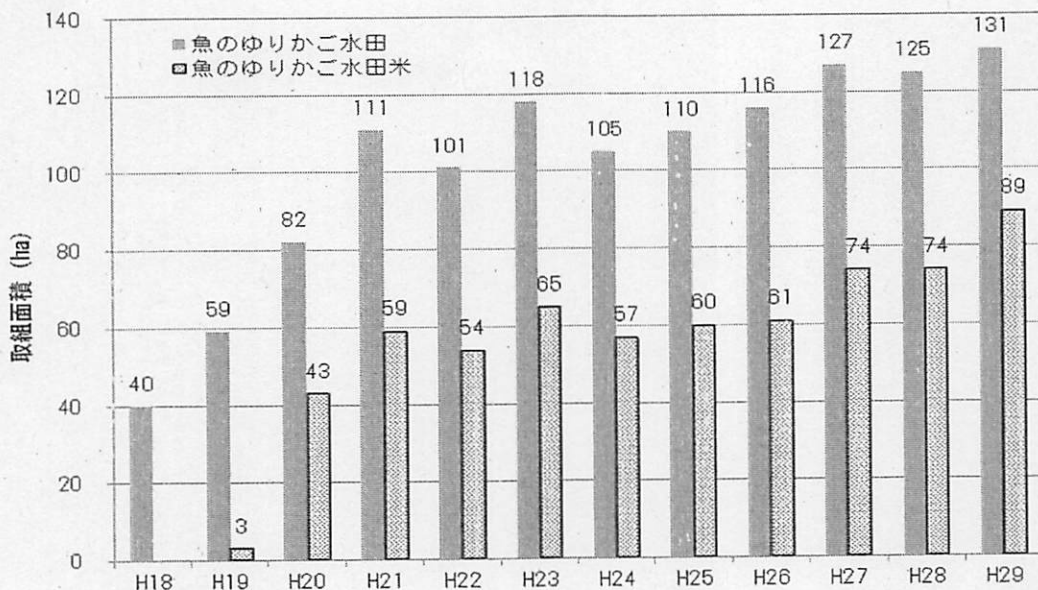
<「みずかがみ」の作付推移>



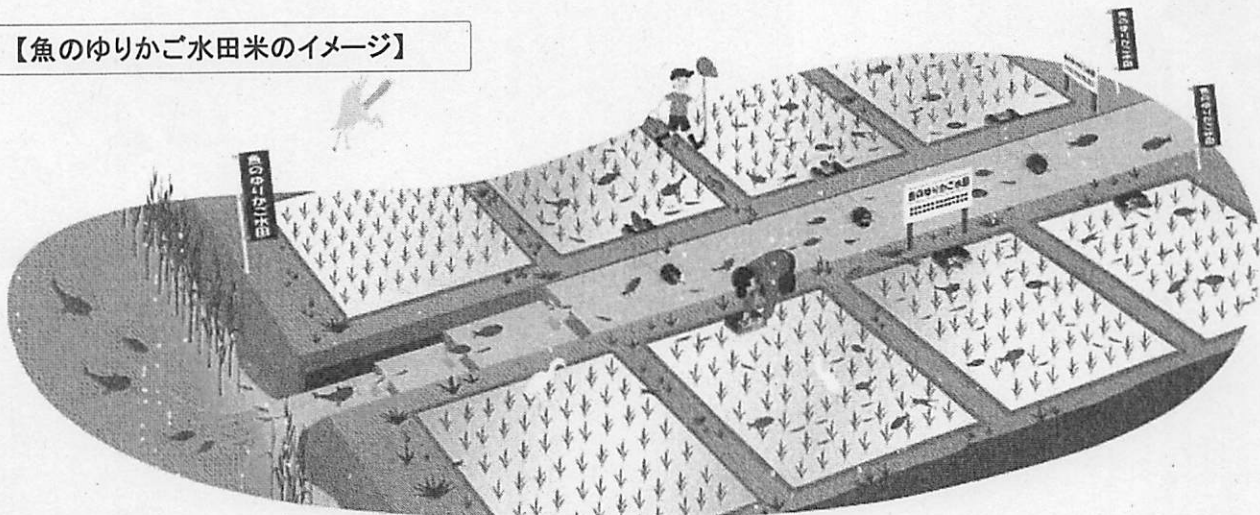
※1等米比率は農林水産省公表値、H29年産は平成30年1月31日現

<魚のゆりかご水田米>

【魚のゆりかご水田米の作付推移】



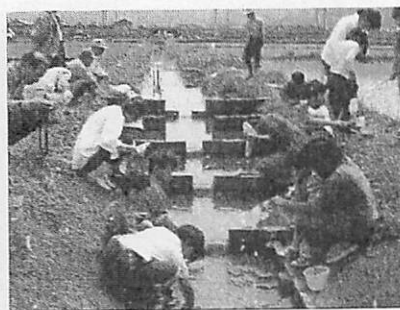
【魚のゆりかご水田米のイメージ】



【魚のゆりかご水田米認証マーク】



【ナマズの遡上】



【生きもの観察会】